

令和6年度第1回学校関係者会議次第

令和6年9月10日（火）

13:30～14:30

1 校長あいさつ

2 自己紹介

3 議題

- (1) 在校生の調査結果からの教育活動の評価

4 その他

(資料)

別紙 令和6年度学校関係者会議出席者名簿

資料1 在校生の入学に至る過程・入学後の満足度・AP（アドミッションポリシー）に対する自己評価の調査

参考資料 アンケート調査票

1. 在校生の調査結果から教育活動の評価
資料1 参照

2. 教育活動についての意見交換

調査結果からみる看護師の志望時期と情報発信について

- Q A委員 アンケート項目8に看護職志望を決定した時期があり、その結果はいかがであったか。
- A 当方 小学生が一番多く、高校1・2年生、次に高校3年生と中学生が同じ位であり、その他保育所や社会人と様々な意見があった。
- Q B委員 中学生の看護職志望者を10人から14・15人にするために取り組んだらよいと思う。
- Q C委員 ①—4受験を決定する上で重要な情報源として、ホームページをよく見てことがわかる。スマホでも見られる重要な情報発信源である。在校生に、「どんな情報があればもっと三次看護が選ばれるか。どんな情報が他のホームページと比べてなくて困った。」など学生目線で確認することで、改善点を見つけられるのではないかなと思う。声を頂いた所が改善されるとホームページなどPRするポイントにもなると思う。
- Q D委員 学生の確保は、現在大学志向が進んでおり難しい中、県北に看護学校があることは貴重なことである。パンフレットにこの学校に来たら何が自分にとって将来メリットがあるのかアドミッションポリシーやカリキュラムポリシーについて示されたらよいと思う。アドミッションポリシーは、募集の段階から示されると良いと思う。また、看護学校としてのブランドは何か、が示されると良い。パンフレットのP3・4に写真が多くメッセージ性があるが、最初の見開きP1・2に大きくポイントが示されると良い。
- Q B委員 このような満足度調査を、県内の他学校もされているか。
- A C委員 自己評価を学生に対して詳細にアンケートしている学校は把握していない。
- Q B委員 先行して特徴を掴みそれをホームページにアップし、三次看護でできることをなるべく早くアピールをするように取り組まれるとよい。根本は、看護師となる人が増えないといけない。県全体で看護師を増やす取り組みを行い、県の施策として必要だと思う。
- A 当方 しっかりと学校をアピールしながらブランド力も高め、ホームページも刷新していきたい。

調査結果からみる満足度について

- Q C委員 ②—2各学科学年の満足度では、第一看護学科3年生で学校生活が全学年の全項目で3.2と一番低かったため、どういうところに思いがあるのか詳細が分かれば知りたい。
- A 当方 今回の調査書では、詳細状況を回答できるアンケート用紙ではなかった。その部分の詳細を知ることができれば、具体的な方策につながると思う。学校生活については、いくつかの項目がありその平均点をとっている。
- Q D委員 アンケート調査を行い、これは良かったということがあれば教えて頂きたい。
- A 当方 自由記載欄に「アンケートをすることで学生の意見を聞いてくれてよかった」という意見を聞くことができた。こちら側の聞く姿勢が、学生に伝われば今後より満足度も高めていくことができると期待している。

- Q E 委員 満足度に関しては、他校との比較の中でどうだったかの基準が見えてくるため他校との比較が必要になる。県内の看護学校との比較という視点を持っていただきたい。もう1点は、APの成長したこと・成長できていないグラフだが、非常に見づらく分析しづらい。1点面白い箇所は、左側のAPの2と3である。1・2・3年と3倍くらいに増えている。2の社会の規範を守ると3の困難に立ち向かうは、1年生の時に2・2であったが、2年3・8と3年生で7・7と明らかに増えている。1～3年生は全く別の集団である。教育の過程と一概に言えないこともあるが、伸びていることは良いことである。一方で、できていないAPを見てみると、3学年で突出して4は11名で、社会に関心があるは増えている、これを課題とするかどうかは意見が分かれるところであると考え。この質問は択一での回答であり、AP1の学習習慣は減り、AP4は増えた結果から、しっかり勉強しているから社会に目が向かないとも考えられる。ある意味いいことかもしれないが、悪いことかもしれないとも考えられるため、この評価は難しい。結局、これらの項目から何を求めたいのか見えてこないため、三次看護の理想としてどういう形を求めるのかをしっかりと定めて行われると興味深くなると考える
- A 当方 今後、ベンチマークも出来たらよいと考える。経時的に、学年別で対象が異なるため、今後1年生・2年生がどのように成長していくか見ていきたいと思う。
- Q F 委員 ②—1満足度の学校生活について、満足度が全体的に低かったことは、交流会など行事が中止したことで、学年だけでなく全体にも影響していると思う。また、②—3教育方法で、一部の実習で実習メンバーをクラス混合にされるのはストレスが高いという意見から、学年が違うクラスの中での交流が難しいと考える。これから社会人になると色々な職場や患者さんとの関わりの中でストレスを受けることもある。学校行事やクラスの中、人間関係は大切なため相反する意見ではあるが、コロナも収まり行事を再開するとしたら、交流での成長も社会人基礎力として身につけていって欲しい。
- A 当方 昨年、コロナも5類になり学校行事も再開している。学生達には、行事など経験しながら社会人基礎力を高めていけるようにしていきたい。

在校生の入学に至る過程・
入学後の満足度・
AP（アドミッションポリシー）に対する
自己評価の調査

令和6年度第1回学校関係者会議
広島県立三次看護専門学校

はじめに

本校では、令和6年度第一看護学科入学生が、定員に対し71.7%の充足率となり、受験生も減少傾向である。そのため、本校に受験・入学するにあたってどのように本校を選んでいるのか等、現在の受験生の状況を知ることは、入学生確保や学生指導につながるのではないかと考え調査を実施した。

併せて入学した学生が、本校に入学時に抱いていた期待と、学校運営の表れである満足度も知り、学校評価を行った。

また、本校はアドミッションポリシー（以下APと略す。入学時受け入れ方針）を示している。これらが備わっている学生が入学しているのか、現在のAPの到達度についても調査した。

今後の入学生確保や学校評価のために、在校生全体に調査を行ったので報告する。

1 調査の目的

- ①在校生の看護職や本校の入学に至る過程について知る。
- ②在校生の入学後の学習や学習環境の満足度について知る。
- ③在校生のAPの到達度について、行動例から現在の到達の程度について知る。
- ④①～③から、今後の教育活動に活かす。

2 調査対象

令和6年度在籍学生のうち、休学者を除いた183名
第一看護学科1年生44名、2年生66名、3年生57名
第二看護学科1年生 9名、2年生 7名

3 調査内容

- ① 看護職や本校入学に至る過程（アンケート調査番号1～13）
身近に看護職がいるか、看護職志望動機、時期
本校への受験を決めた動機、時期、重要な情報源
入学時の期待内容
- ② 入学後の学校に対する満足度（アンケート調査番号14～41）
教育、施設・設備、教員や学校事務、学校生活、
三次看護専門学校に対する考えについて、
期待に反していたこと
- ③ 行動例から、APの到達度に対する自己評価
（アンケート調査番号42～51）

4 調査方法

調査票は、Microsoft365のFormsに質問表を作成した。

対象者は、配信したURLから質問票にアクセスし、WEB上で回答できる設定とした。作成したFormsへアクセスできる期間（留め置き期間）は3週間とした。

名前やメールアドレスの回収はしないこと、対象者の回答により、対象者に対する関りや評価などに影響がないことを明記した。回答をもって本調査への協力について同意を得たこととした。

5 集計方法・分析の視点

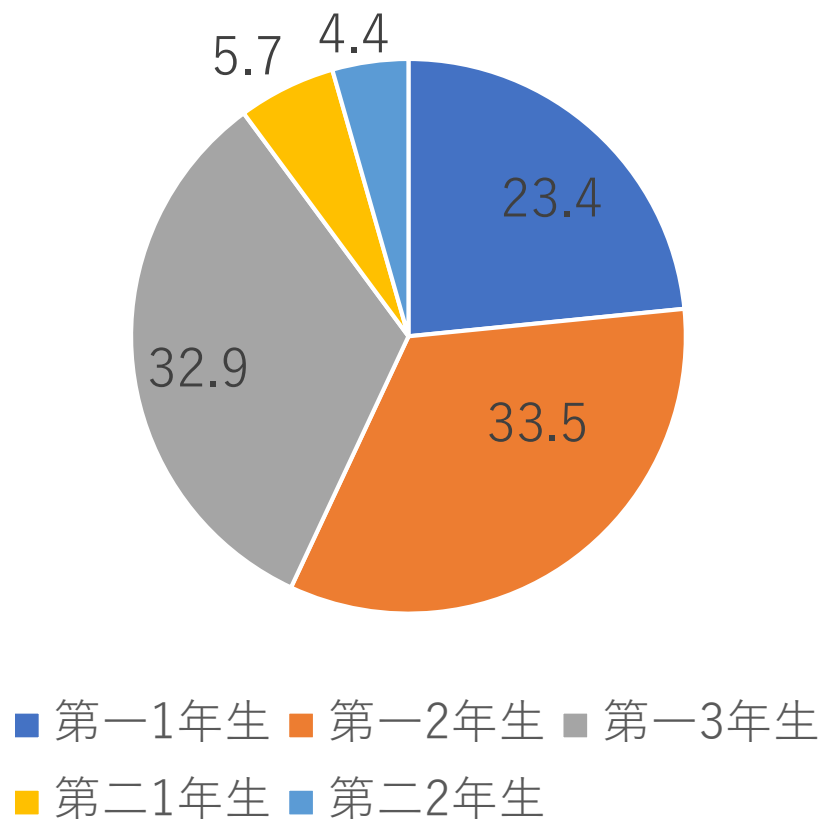
集計は、Microsoft Excelで単純集計を行い、記述統計を行う。属性との関連についても把握する。

データから在学生の①看護職や本校入学に至る過程②入学後の学校に対する満足度③APの到達度の自己評価から、教育の課題をまとめる。

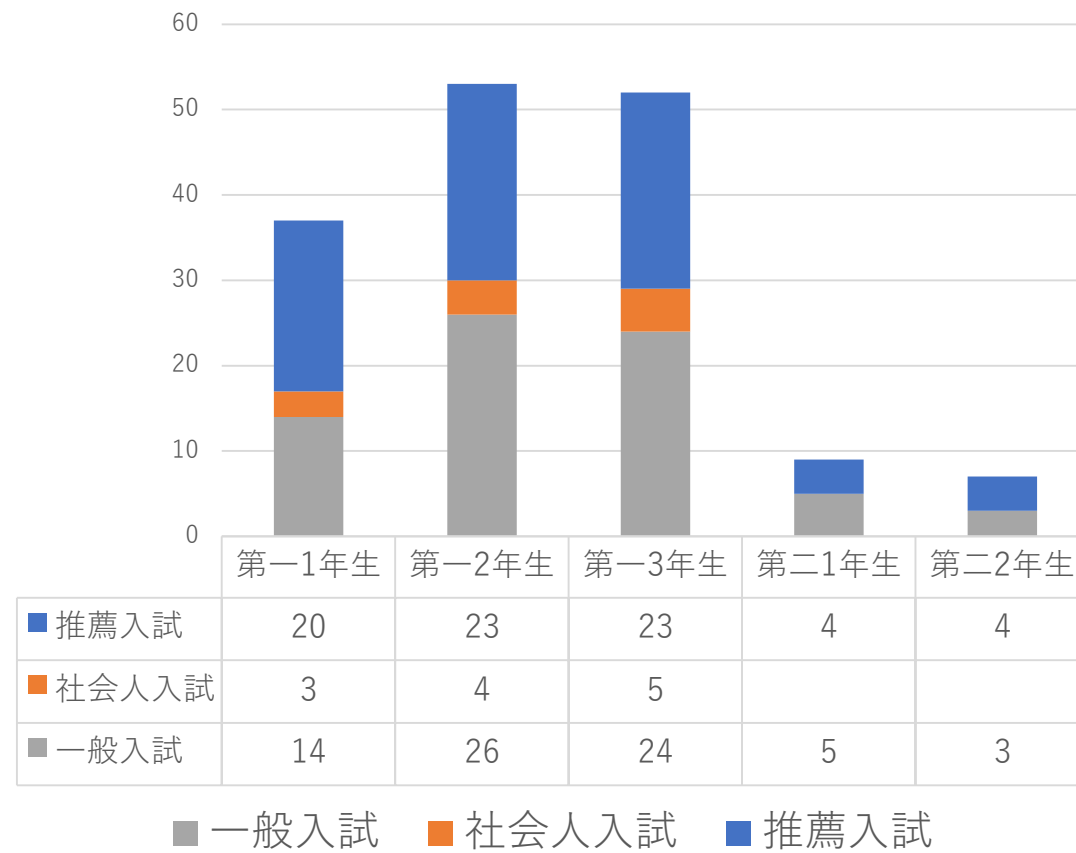
6 調査結果

回答者 158名 回収率86%

回答者の背景 (%)



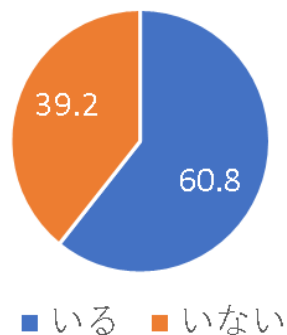
回答者の内訳(人)



①看護職や本校入学に至る過程

①－1 身近な人の看護職の有無と関係性について

4 身近な人の看護職の有無 (%)



『有』と
回答した
人の内訳

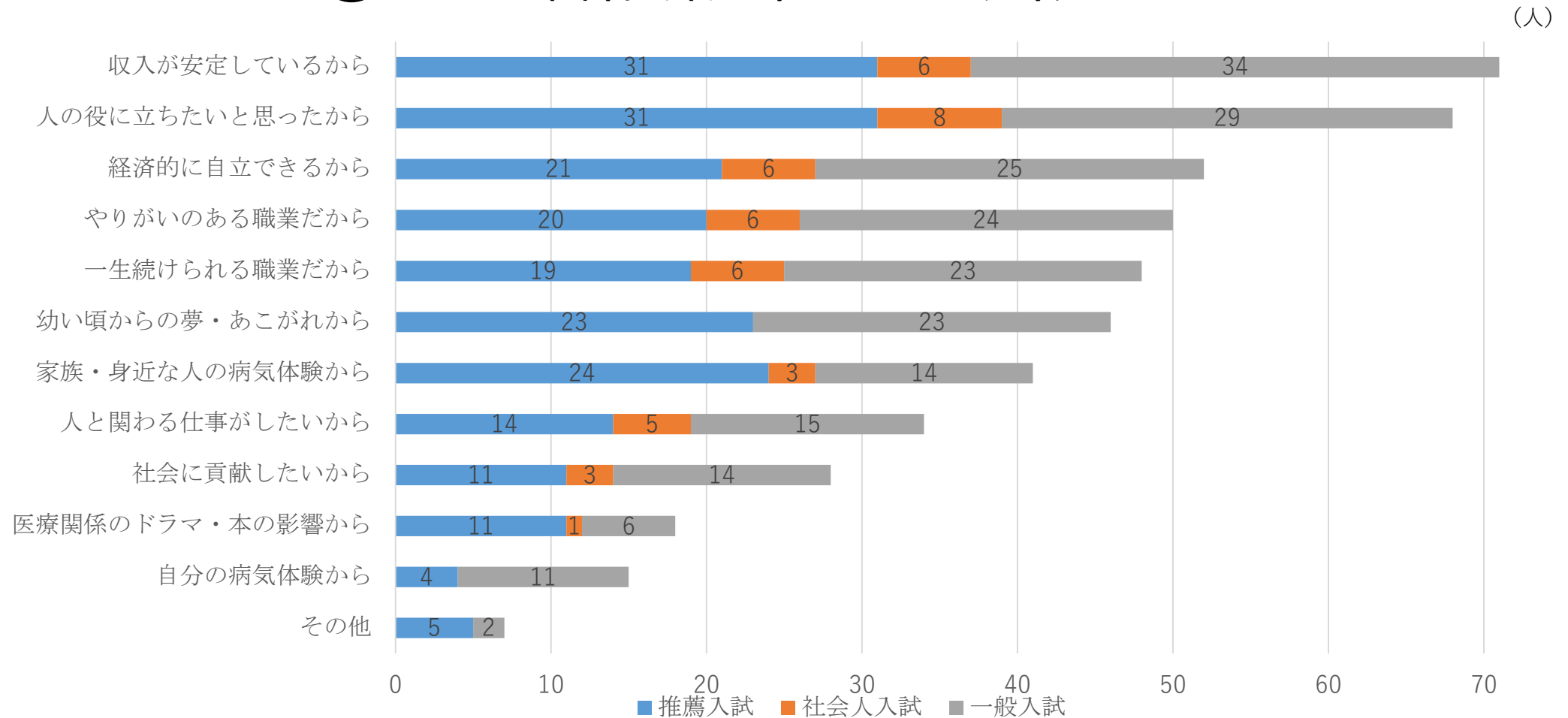
身近な看護職の人との関係 n = 96		
	人数	割合 (%)
母親・父親	38	39.6
親戚	24	25.0
兄弟・姉妹	13	13.5
祖父母	4	4.2
知人・友人	9	9.4
その他	8	8.3
総計	96	100

看護学校への入学に対して身近な人は賛成
でしたか n = 96

	人数	割合 (%)
賛成	84	87.5
どちらでもない	10	10.4
反対	2	2.1
総計	96	100

- ・自分の身近に看護職がいると回答した学生は、6割程度である。
- ・その内訳は、最も多いのが両親で、続いて親戚、兄弟・姉妹と続き、親族が8割以上を占めている。
- ・その他には、息子や妻など自身の家族内に看護職がいたり、母親・祖母・弟など複数の看護職がいると回答していた。
- ・身近な人の9割強は、看護学校への入学に賛成していた。

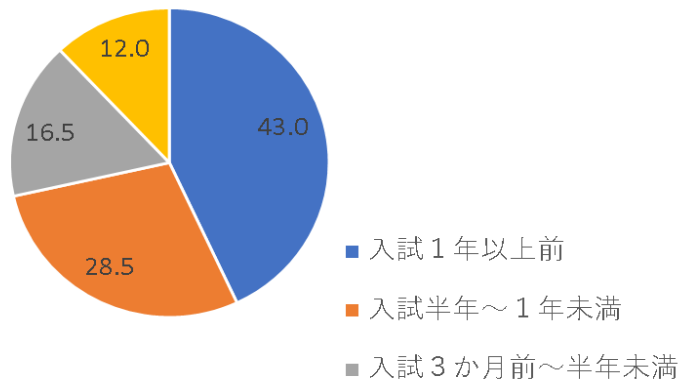
①ー 2 看護職希望の動機について



- ・ 全体的傾向としては、「収入が安定している」や「人の役に立ちたい」という動機が多かった。
- ・ 推薦入試者は、「家族・身近な人の病気体験」が動機の第3位に上がった。
- ・ 社会人入試者は、「人の役に立ちたい」が動機の第1位だった。

①ー 3 本校への受験を決めた時期と方法について

本校への受験を決めた時期（％）



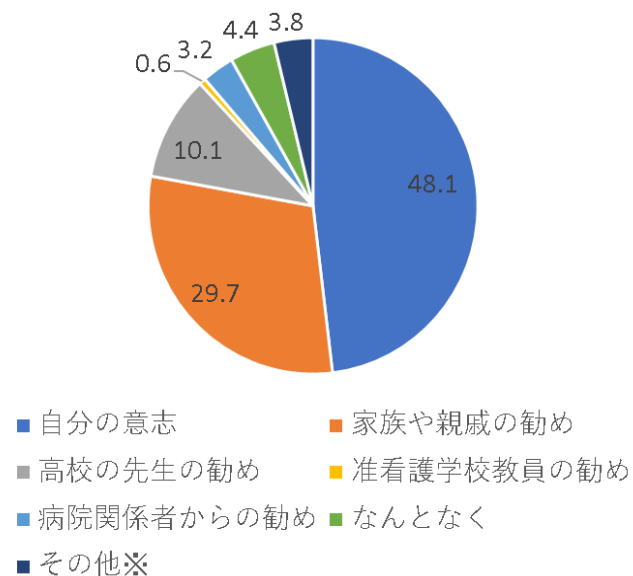
本校受験を決めた時期（入試区分）

	入試1年以上前	入試半年～1年未満	入試3か月前～半年未満	入試1か月前～3か月前	総計
推薦入試	44	18	8	4	74
社会人入試	6	2	3	1	12
一般入試	18	25	15	14	72
総計	68	45	26	19	158

本校へ受験を決めた方法（入試区分）

	自分の意志	家族や親戚の勧め	高校の先生の勧め	准看護学校教員の勧め	病院関係者からの勧め	なんとなく	その他※		総計
推薦入試	36	27	5		4		2	※2	74
社会人入試	10						2	※3	12
一般入試	30	20	11	1	1	7	2	※1	72
総計	76	47	16	1	5	7	6		158

本校への受験を決めた方法（％）



・推薦、社会人入試者は、入試1年以上前から受験を決定し、一般入試者は、入学半年～1年未満に決定している人が最も多かった。

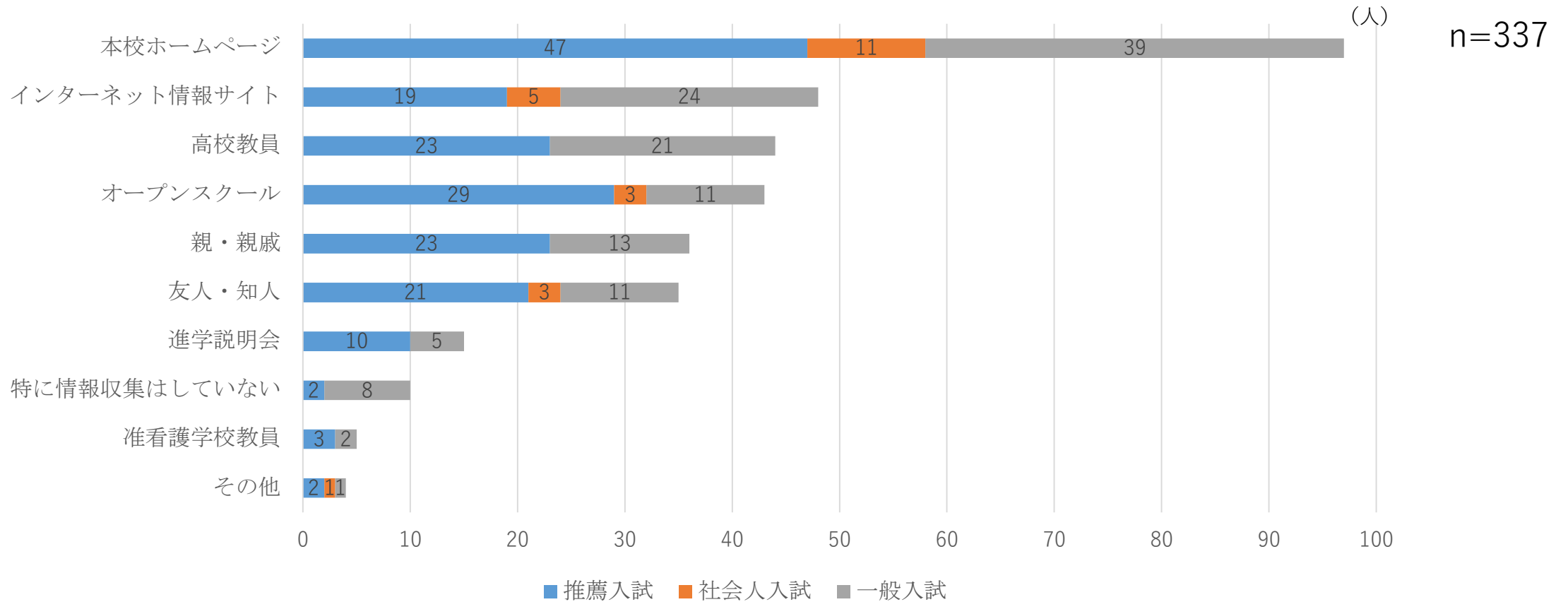
・受験を決めたのは、自分の意志が最も多かったが、推薦・一般入試者では続いて家族や親戚の勧めが多かった。

※1学費が安く自宅から近い

※2学費が安く高校の卒業生の進学先だったから

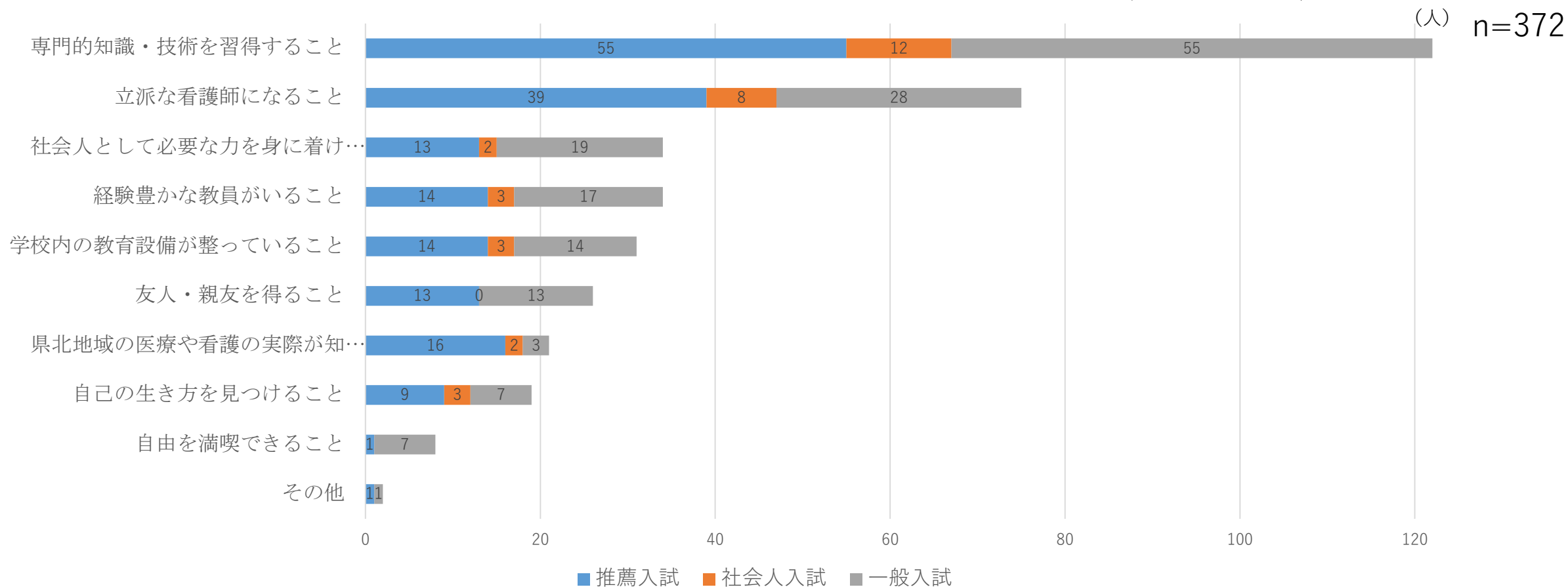
※3専門実践教育訓練給付金を利用でき、祖母の家から通える

①ー 4 本校の受験を決定する上での重要な情報源について (複数回答)



- ・ 情報源では、本校ホームページが最も多く、インターネットでの情報源が上位を占めていた。
- ・ 情報源の3位に「高校教員」、4位には「親・親戚」がみられた。
- ・ 推薦入試者は、「オープンスクール」が第2位であった。

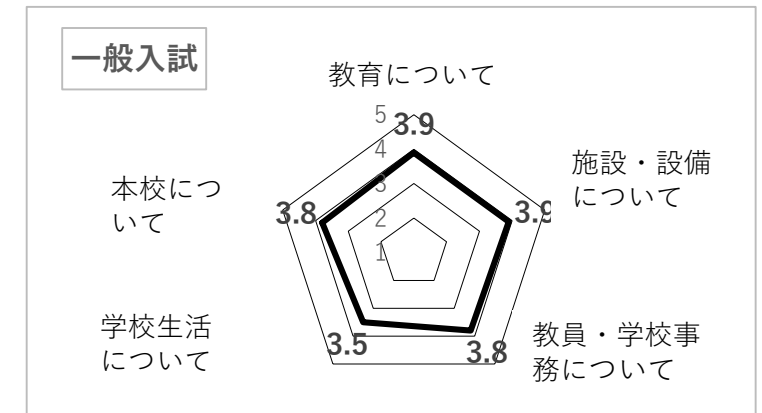
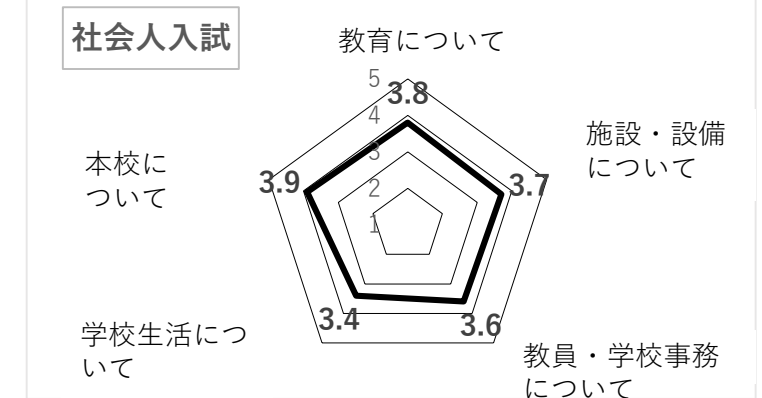
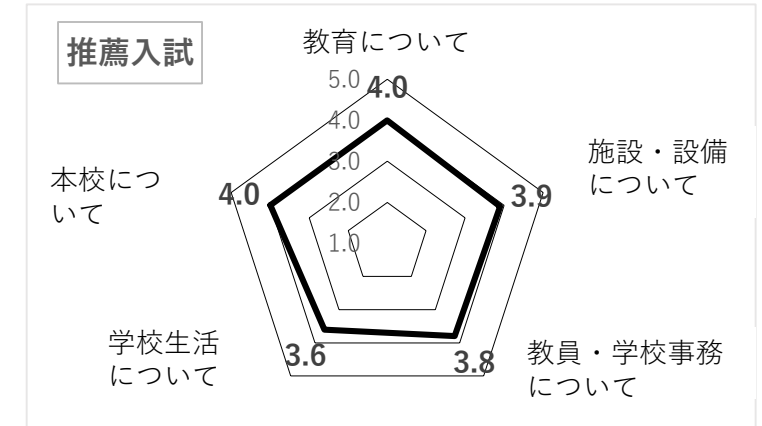
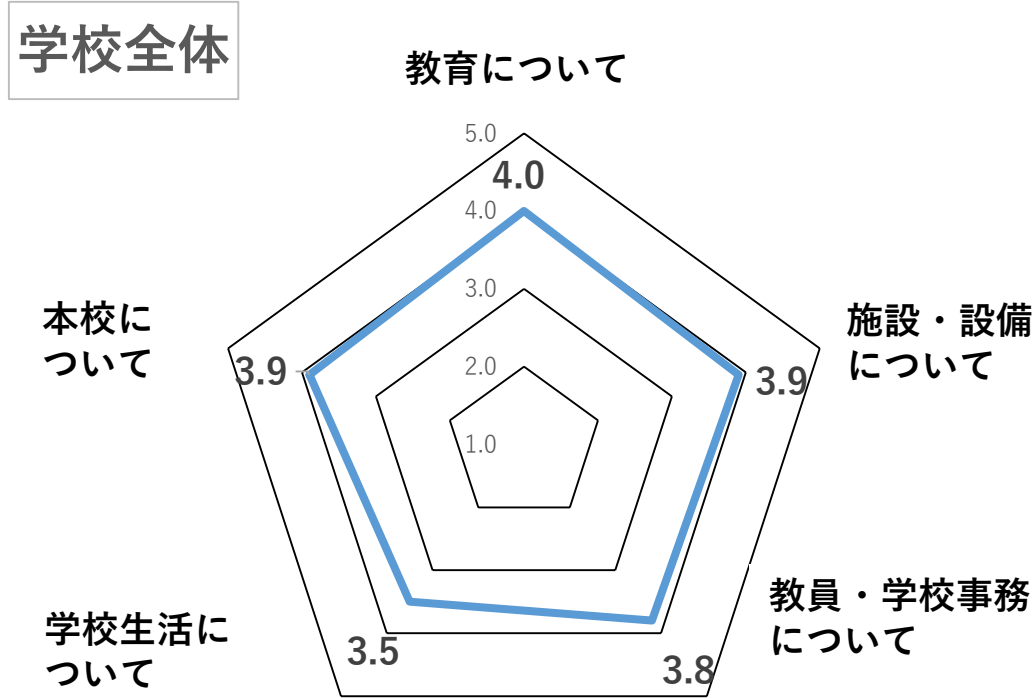
①ー 5 本校入学時に期待していたことについて (複数回答)



- ・ 入学時の期待は、「専門的知識・技術の習得」と「立派な看護師になる」ことが多かった。
- ・ 推薦入試者は、他の試験区分者と比べて「県北地域の医療・看護の実際が知れる」ことを期待していた。

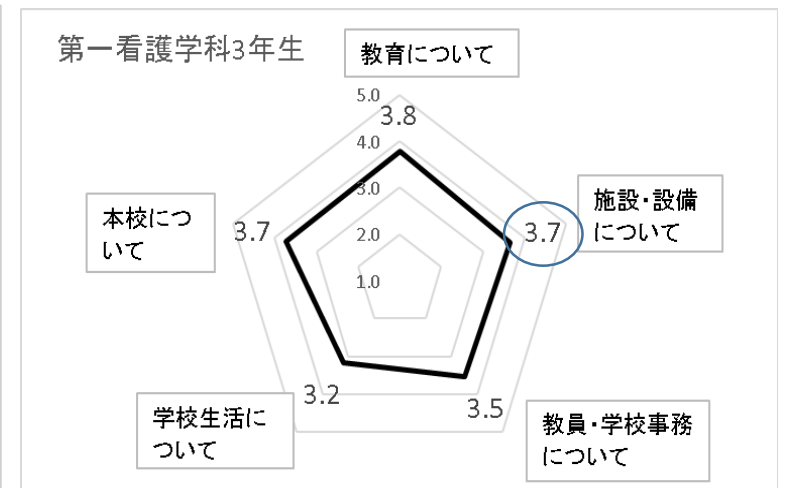
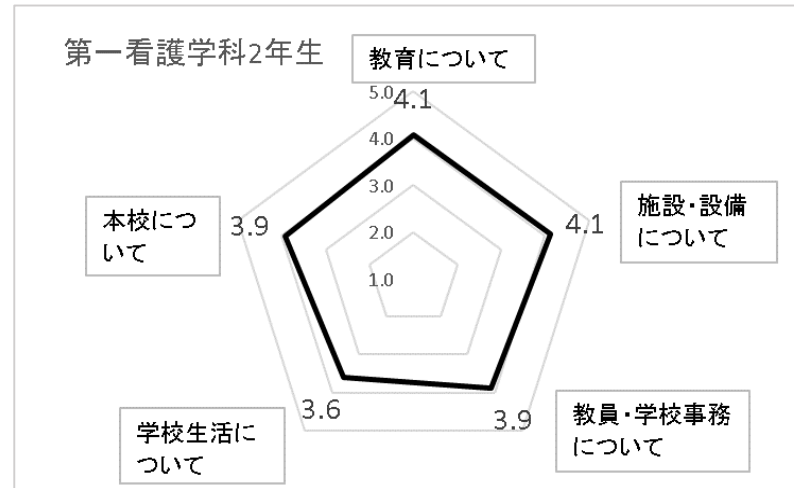
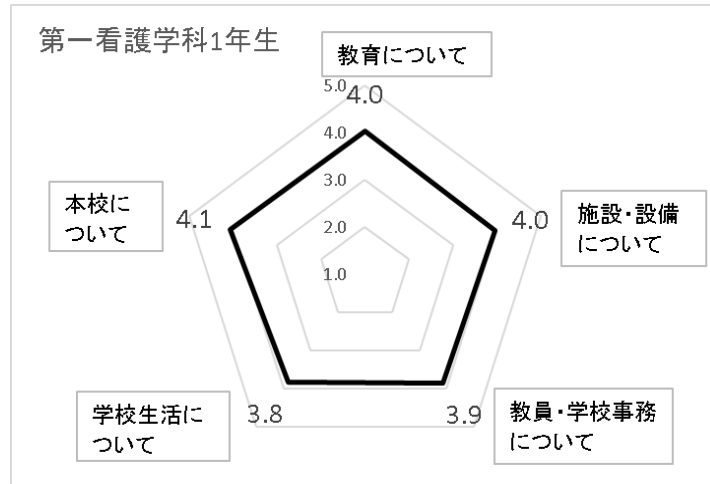
②入学後の学校に対する満足度

②ー1 満足度について

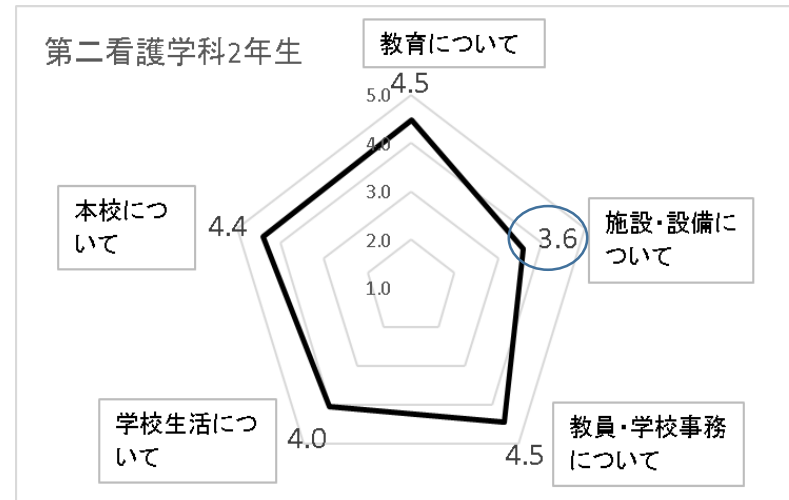
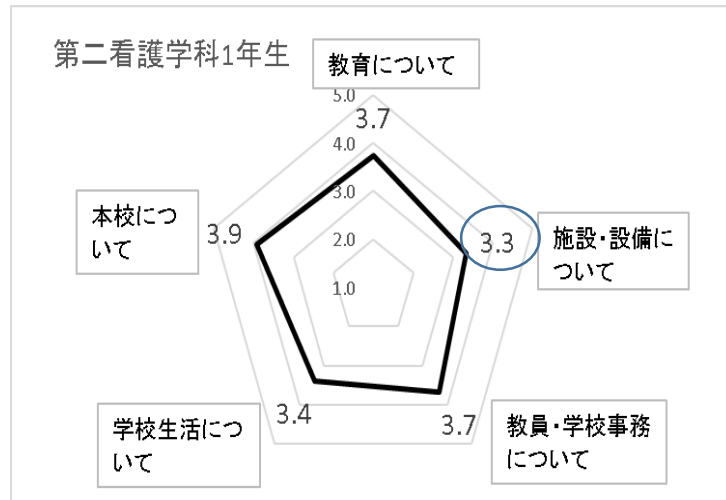


- 全体的に満足度は高い傾向だが、「学校生活について」が最も満足度が低い。特に「学校で先輩や後輩，他学科との交流が充実している」が最も低く、学科の交流のある学校行事や教育セミナーの中止や変更が影響している。
- 入試区分による満足度は、わずかに推薦入試→一般入試→社会人入試の順で満足度が高い。

第一看護学科 ②—2 各学科学年毎の満足度



第二看護学科



・第一看護学科では、1年生→2年生→3年生の順に満足度が低くなっている。

・第二看護学科では、2年生が満足度が高く1年生は低い。

・「施設・設備について」は、3学年で4以下であり、情報処理室パソコンの整備や教室以外の共有部分の整備の満足度が低い。

・「教員について」の満足度が低い項目は「教員はよく学生を理解していると思う」である。

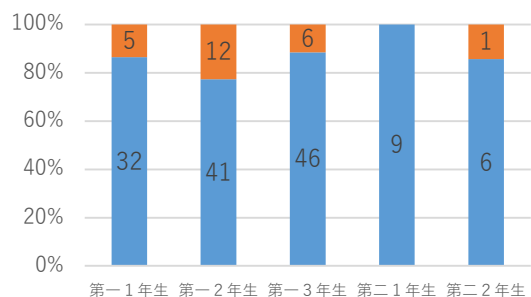
②ー3 入学後、期待に反していたこと（自由記載）

項目	主な内容
学校の学習環境について（5人）	・机と椅子が使いにくい ・コピー機が自由に使えない ・冷暖房を自由に操作できない ・図書の貸出が自由な時間にできない
ICTについて（2人）	・Excelでの時間割が見にくい ・入学直後の初期設定などが難しくてわからず不安になった
教育内容について（2人）	・学科外活動がリラックス目的のものであり必要がない ・音楽や体育があるときいていたが、なくて残念だった
教育方法について（4人）	・時間割が曖昧で変更が多い ・グループワークや実習で、社会人が現役生の面倒を見ることが多い ・一部の实習で実習メンバーをクラス混合にされるのはストレスが高い
教員の講義や実習指導での関わりについて（2人）	・先生によって理解しにくい授業がある ・実習指導の方法が教員によって違うことでとまどいがある ・実習指導での指導を公平に行ってほしい（時間など） ・教員の連携を徹底して学生が混乱しないようにしてほしい ・実習の評価で実際の場面を見ずに評価しないでほしい

③APの到達度に対する自己評価

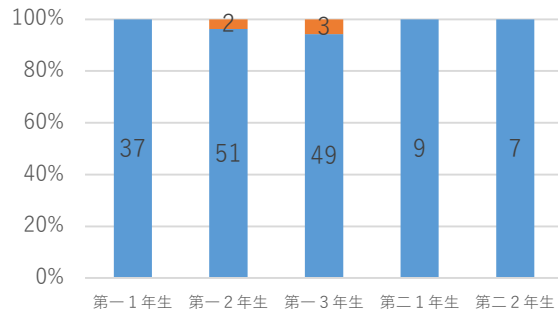
③ー1 APの自己評価

AP1学習習慣があり、努力を継続する人



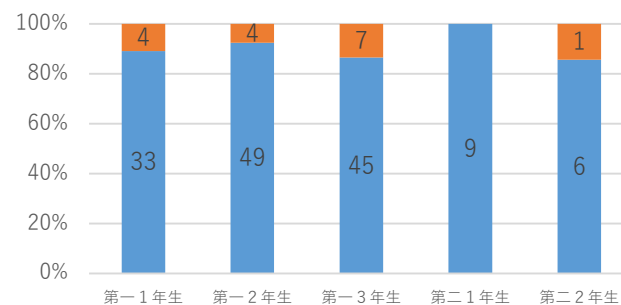
■ できる ■ できない

AP2社会の規則や規範を守って行動できる人



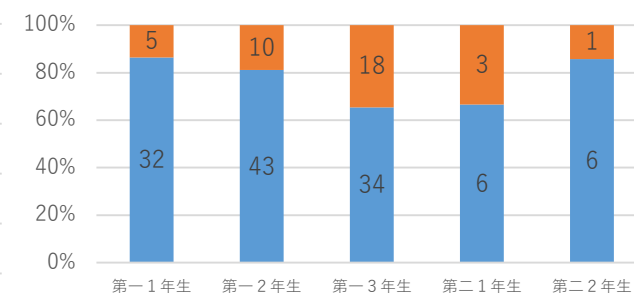
■ できる ■ できない

AP3困難な時に立ち向かうことができる人



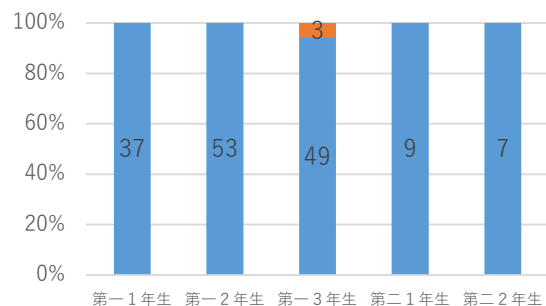
■ できる ■ できない

AP4人間の生活や社会に関心がある人



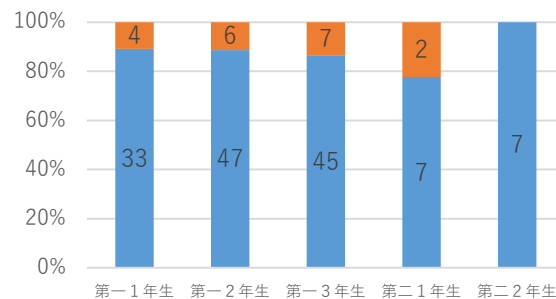
■ できる ■ できない

AP5思いやりの心、素直さを持ち
協調性のある人



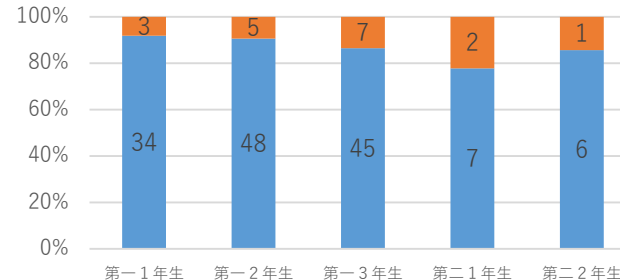
■ できる ■ できない

AP6人の意見を聞き、自分の意見や考えを表現・
発信できる人



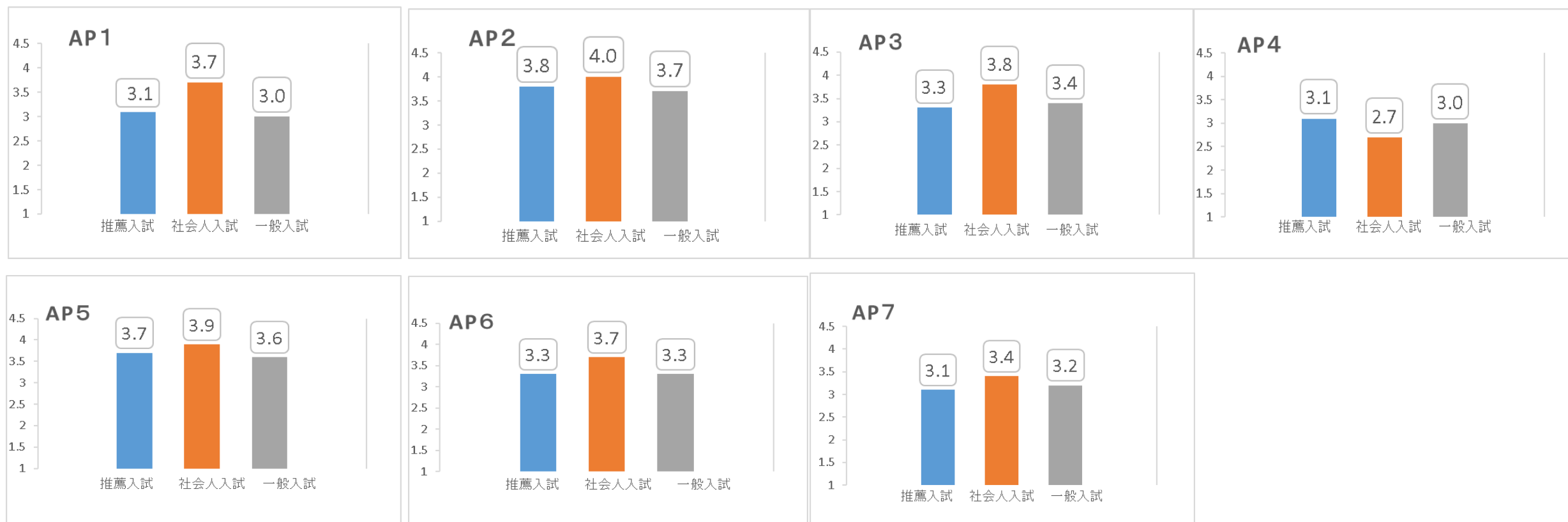
■ できる ■ できない

AP7これまでの学習を振り返り自己の課題を見出せる人



■ できる ■ できない

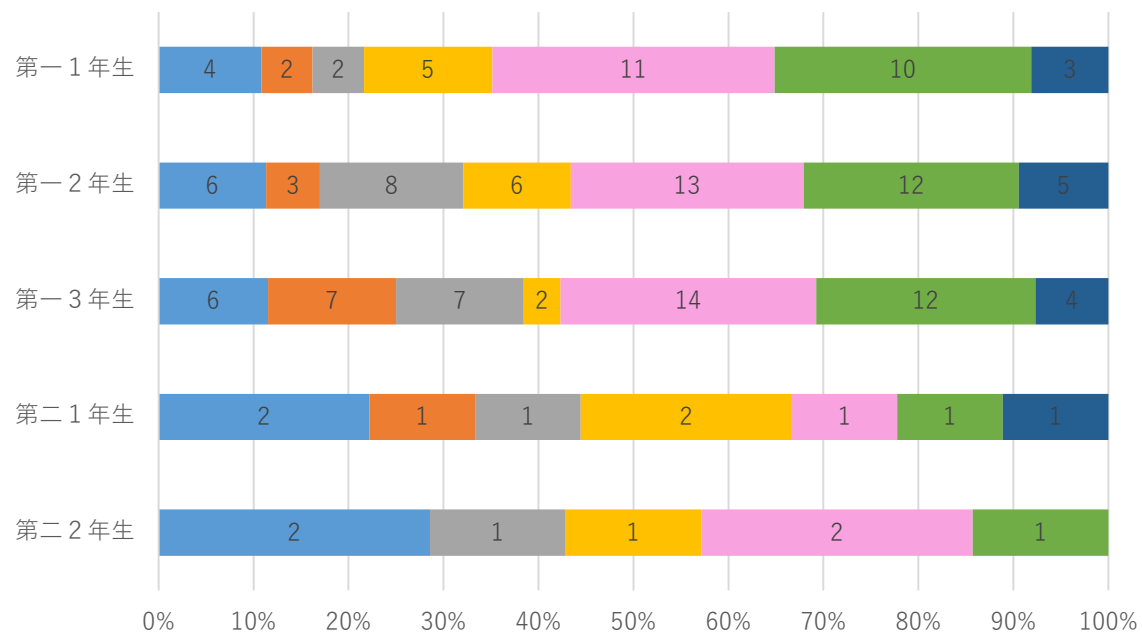
③ー2 入試区分で比較したAP



- ・ 社会人入試の学生のAPは他の入試区分に比べて全体的に高く、AP 1 の(学習習慣があり、努力を継続する人)の得点の差が最も大きい。一方、AP 4 (人間の生活や社会に関心がある人)は他の入試区分に比べて低い。
- ・ 推薦入試と一般入試の学生ではAPの差はほぼ見られない。

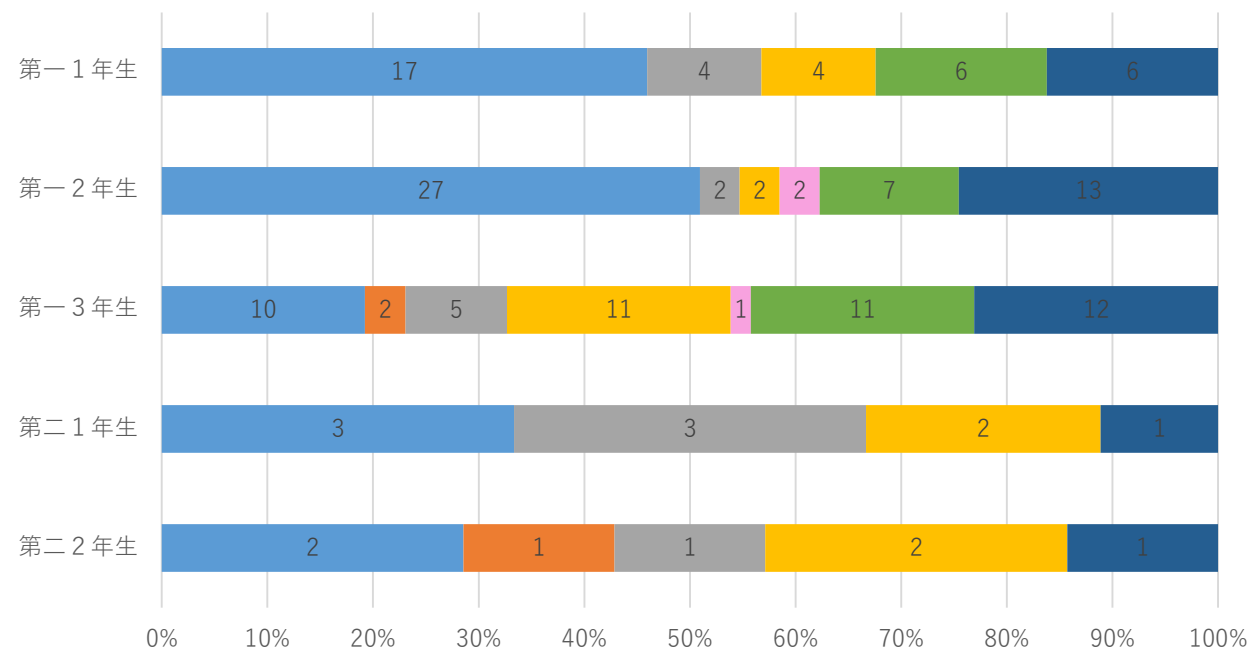
③ー3 現時点で成長した・成長できていないAP

現時点で成長したと思われるAP



- AP1学習習慣があり、努力を継続する人
- AP2社会の規則や規範を守って行動できる人
- AP3困難な時に立ち向かうことができる人
- AP4人間の生活や社会に関心がある人
- AP5思いやりの心、素直さを持ち協調性のある人
- AP6人の意見を聞き、自分の意見や考えを表現・発信できる人
- AP7これまでの学習を振り返り自己の課題を見出せる人

現時点での成長できていないAP



- AP1学習習慣があり、努力を継続する人
- AP2社会の規則や規範を守って行動できる人
- AP3困難な時に立ち向かうことができる人
- AP4人間の生活や社会に関心がある人
- AP5思いやりの心、素直さを持ち協調性のある人
- AP6人の意見を聞き、自分の意見や考えを表現・発信できる人
- AP7これまでの学習を振り返り自己の課題を見出せる人

7 本校の教育評価と課題

- 推薦・社会人入試では、1年以上前から本校受験を決めている人が半数以上だった。また、受験を決めた方法として自分の意志や家族の勧め、高校教員の勧めが多かった。このことより学生確保に向けて、広域にそして低学年に向けて早期からホームページや他の媒体で広く学校の教育について発信し、学生確保に努める必要がある。
- 入学時受け入れ方針（AP）を示して入試をしているが、実際にはその行動が取れないと自己評価した者が少なからず存在した。今後はこの結果を基に、入試方法の検討と入学後もAPを意識化して行動の質が上がるように継続的に指導を行う必要がある。
- 今回初めて満足度について無記名で調査を行った。この結果から本校の学習における環境面の足りない部分や、教員の学生への関わり及び教員間の連携の不満足な部分が明らかになった。また、こちらの教育の意図が十分学生に伝わらず、必要性の認識につなげていないこともみられた。そして、自分たちをもっと理解してほしいという強い学生たちの思いも知ることができた。これらの意見を真摯に受けとめ、選ばれる学校に向けての教育環境の整備に努めていきたい。